

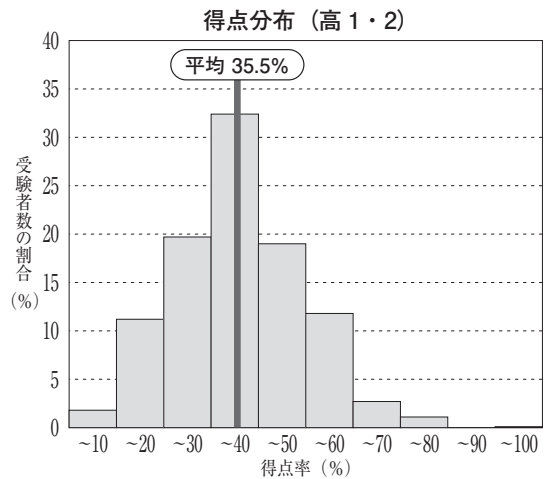
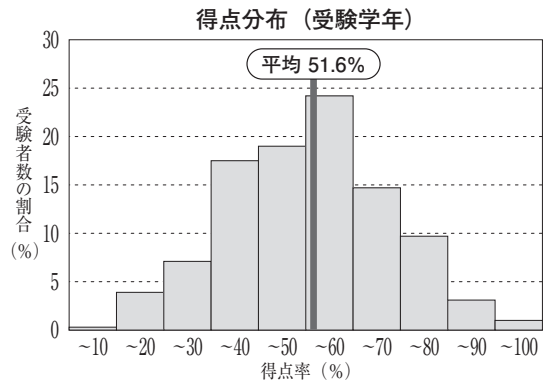
地学基礎

論理の展開を把握しよう。

I. 全体講評

今回の得点分布は、右図のようにになっている。受験学年の平均点は25.8点であった。第4回8月センター試験本番レベル模試の21.8点から順調に伸びている。10月時点で一通りの学習を終え、十分に演習を積み、知識を定着できている受験者が増えてきたと思われる。

「地学基礎」は「地学」に比べて学習項目が少なく、教科書をしっかりと理解することで十分に満点を狙える科目である。一つ一つの知識を確実に身につけて、着実に得点を伸ばしていくようにしよう。



II. 大問別分析

■各学年の平均点、大問ごとの得点率

学年	平均点	第1問	第2問	第3問
高1	16.7点	37.5%	26.2%	31.6%
高2	18.8点	43.2%	28.7%	33.9%
受験学年	25.8点	55.5%	41.4%	54.4%
全員	24.0点	52.3%	38.3%	49.4%

第1問 活動する地球

図の読み取りに慣れよう。

Aでは地球内部の層構造についての基礎的理解と計算力を確認した。各層の境界の地表からの深さは正しく覚えておこう。問3のように、図を選ばせる問題は今年のセンター試験でも出題されている。

る。学習の際には、自ら手を動かして図などを描いておくことが重要である。

Bでは先カンブリア時代の変遷についての基礎的理解を確認した。光合成生物の出現および縞状鉄鉱層の堆積と、大気中の酸素濃度の増加のタイミングを確認しておこう。

Cでは地質構造とその形成についての総合的理解を確認した。本問のような地質断面図を題材にした問題は、過去2回のセンター試験においても出題されている。地質断面図から層序と地殻変動の歴史を読み取る練習を積んでおこう。

第2問 大気温室効果

温室効果に関する知識を整理しよう。

大気温室効果についての総合的知識と理解を確認した。大気温室効果による地球温暖化は、環境問題として取り上げられることの多い内容であるので、その要因や影響を正しく理解しておこう。地球温暖化というと二酸化炭素が注目されるが、温室効果に最も寄与しているガスは水蒸気であることに注意しよう。

第3問 宇宙

太陽系の惑星に関する知識を整理しよう。

Aでは宇宙の膨張に関する基礎的知識を確認した。宇宙の誕生から現在までの、宇宙の進化の表を確認しておこう。

Bでは木星の内部構造と惑星の特徴についての総合的理解を確認した。地学基礎では、太陽と太陽系を中心に学習する。地球型惑星と木星型惑星の違いについて、知識を整理しておこう。

Ⅲ. 学習アドバイス

◆受験生及び既に受験勉強に励んでいる人へ

◆(1) 時間に負荷を掛けて演習しよう。

入試本番では、必ず見直す時間を確保したい。例えば、センター試験では試験時間60分間で2科目を選択解答することになるが、10分程度を見直しに充てられれば理想的である。そのためには大問ごとに普段から制限時間よりも短い時間を設定し、負荷をかけた演習を行うことが有効である。過去問の演習の際には大問ごとに時間を設定して取り組むことが重要である。

◆(2) これからの学習について。

センター試験本番では「地学基礎」は是非とも満点を狙ってもらいたい。そのために欠かせないことは、苦手分野や学習漏れをなくすことである。「地学基礎」は教科書の内容を逸脱することなく、基礎

的で解きやすい問題の出題が予想される。満点を得るには、教科書の隅から隅まで完全理解を目指し、どの分野にも苦手項目が残らないようにしておきたい。また、分野を横断しての総合的理解を深めるように心掛けたい。「地学基礎」は単なる暗記科目でなく地球についての総合的理解が問われる科目であると認識してほしい。改めて全範囲学習漏れが無いかが確認しておこう。

◆これから本格的な受験勉強に取り組む人へ ◆センター試験の地学基礎について。

センター試験の「地学基礎」は新しい科目のため過去問は少なく、学習を進めるにあたって不安もあるだろう。しかし、センター試験の出題範囲は教科書に限られている。センター試験で高得点を得るためには、「教科書」→「問題演習」→「教科書」という流れの学習方法を反復し、教科書を徹底理解することが大切である。はじめは、理解しようとか暗記しようとか考えずに、地学の内容を概観することが大事である。地学は地球物理、プレートテクトニクス、岩石・鉱物、地質・地史、気象、天文、自然環境と範囲が多岐にわたっている。これらについてどんなことを学ぶのか、どのような図表やグラフがあるのか、大体のイメージを最初に作っておくことがその後の学習に役立つ。

◆模試を活用しよう。

「地学基礎」にはセンター試験の過去問が2年分しかなく、演習量が不足しがちである。そのため、模試を演習の一環として学習を進めていくことが重要となる。2か月ごとに実施される東進のセンター試験本番レベル模試は、全国統一高校生テストも含め年6回で「地学基礎」の出題範囲をすべてカバーするため、学習の進み方と学習の不足点を判定できるとてもよい機会である。今後も模試の受験を継続し、着実に得点を伸ばしていこう。